

自己点検・評価報告書

2024年度

東京三立学院

1. 学校の理念・教育目標

- 理念: ①21世紀の国際交流に寄与貢献する  
②お互いを慈しみ理解し合い、国際交流を深め、平和な世界作りを推進  
③生徒の思い出に残る充実した教育環境・交流を作る  
④各国教育関係者の協力を得て、真に勉学向上心があり、生活能力のある生徒を募集

教育目標:①愛情あるしっかりとした講師陣による日本語教育

- ②教育環境・設備を充実  
③生活環境、生活指導を十二分にケアする  
④日本人の社会習慣及び道德観の教育を盛り込む

2. 評価項目の取り組み状況

(1) 理念・教育目標

評価項目	適切4・ほぼ適切3・やや不適切2・不適切1
学校の理念・教育目標は定められているか	④・3・2・1
社会のニーズ・学生のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④・3・2・1
学校の理念・教育目標などが学生や保護者・紹介機関に周知されているか	4・③・2・1

開校以来一貫した理念・教育目標を掲げ、教職員に理解を徹底するようにしています。当校は進学を中心としながらも総合コースとして、昨今微増してきた特定技能を含む就労の学生のニーズにも応えるべく、日本の文化・習慣の紹介やコミュニケーション力を伸ばすトレーニングも盛り込んだ語学指導をしています。

またこれまで同様、当校には在籍学生の母国スタッフがおりますので、その理念や教育目標は、当校の説明会や面接時に、また、紹介機関を通じて、学生・保護者に周知できていると考えています。しかしながら昨年度より受け入れているウズベキスタン人学生には、対応できる常勤スタッフが不在で通訳アルバイトに頼っています。その点において当該国学生の保護者とのつながりはやや密接性に欠けるという課題があります。今後当該国の受け入れは終了する予定ですが、在籍中の対応は不備のないよう留意していくつもりです。

(2) 学校運営

評価項目	適切4・ほぼ適切3・やや不適切2・不適切1
目的に沿った運営方針が策定されてるか	④・3・2・1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④・3・2・1
運営組織や意思決定機能は、規則などにおいて明確化されているか、有効に機能しているか	④・3・2・1

運営方針・事業計画ともに、常に実情と将来展望を鑑み策定しています。コロナ禍で300人にまで引き下げた定員も今年度(2024年度)10月より420人\*に戻し、次年度(2025年度)に向けた本格的な学生募集再開と受け入れ態勢の整備を始めつつあります。( \*その後常勤教員の人数基準の変更によって400人に修正)

また、2025年度に向けて組織の大きな変革を準備しており、将来の文科省認定日本語教育機関への申請に向けた計画や運営方針も整えていく予定です。そうした組織と意思決定機能は学生状況共有システム、社内メールの活用、社員間LINEWorksの活用などで常に共通認識が持てるようにしています。

### (3) 教育活動

評価項目	適切4・ほぼ適切3・やや不適切2・不適切1
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	④・3・2・1
教育理念や学生のニーズを踏まえた教育機関として、教育到達レベルの確認や補講などは明確にされているか	④・3・2・1
学生や時代のニーズに合ったカリキュラムや教育方法の工夫や開発などがされているか	④・3・2・1
学生からの授業評価の実施及び評価体制はあるか	④・3・2・1
成績評価の基準は明確になっているか	④・3・2・1
教職員の能力開発の為に研修などがおこなわれているか	④・3・2・1

これまで同様、学生が目標とする日本語力を向上させるための様々な取り組みを行っています。非漢字圏学生が多数となったことから、クラス編成や教材の工夫、必要に応じた補習など変化する状況に合わせてカリキュラムを調整しています。また引き続き、各学生が自分の成績・日本語レベルや弱点をきちんと把握できるように、教務から成績表を渡すタイミングで母国スタッフが必ず通訳に入り説明しています。教職員の研修については引き続き定期的に幅広いテーマで行っています。次年度はさらに充実した研修となるよう計画しています。

### (4) 学習成果

評価項目	適切4・ほぼ適切3・やや不適切2・不適切1
進路決定率の向上が図れているか	④・3・2・1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4・③・2・1
日本語能力試験や日本留学試験の結果を把握し分析しているか	④・3・2・1
日々の学習成果を確認しているか	④・3・2・1

非漢字圏学生が多数となった今年度でしたが、卒業後の進学希望者についてはほぼ問題なく決定でき送り出せました。学生の校外における学生の活動・評価については把握できていないとはいえず、引き続き課題と考えています。各種試験の結果はこれまで同様、学内で共有し、受験者への対策指導のあり方を定期的に検討しています。学習成果に関してもこれまで同様、学期内で複数回の成績確認(定期試験および実力試験で3か月につき6回)やクラス状況の確認など教員たちで情報を共有しながら指導に当たっています。

### (5) 学生支援

評価項目	適切4・ほぼ適切3・やや不適切2・不適切1
進路に関する支援体制は整備されているか	④・3・2・1
学生相談に関する体制は整備されているか	④・3・2・1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④・3・2・1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④・3・2・1
学生の生活環境への支援は行なわれているか	④・3・2・1

教務は進学の指導を中心に、事務局の母国スタッフは就労希望や帰国その他の希望の学生のサポートを担っ

ています。その他学生からのさまざまな相談は、これまで同様、母国の常勤スタッフ(中国・ベトナム・ネパール)によって適切に対応できる態勢を整えています。経済的側面では、学習奨励費申請、進学助成金・2年目以降の学費分納制度など学生の経済状況を考慮した対応を引き続き行っています。少数在籍のウズベキスタン人学生には対応する常勤母語スタッフがいなかったため、週に何回かアルバイトでの通訳等協力者を採用し始めました。また、入学後の健康診断、体調不良時の医療機関引率、生活面では宿舍の手配と管理、アルバイト情報提供や応募対応などの支援はこれまで同様に実施しています。

#### (6)教育環境

評価項目	適切4・ほぼ適切3・やや不適切2・不適切1
学校の施設・設備が十分かつ安全に整備されているか	④・3・2・1
教材・蔵書は適切か	④・3・2・1
学習向上を図るための環境整備がなされているか	④・3・2・1

引き続き「日本語教育機関の運営に関する基準」および、「日本語教育機関審査内規」の内容に適合した整備を行っています。地震・火事等の自然災害に対する防災訓練も年一回実施し、適切な判断・行動ができるよう学生たちにも指導しています。教材も必要に応じて追加購入し、教員たちが閲覧可能としています。

また、引き続き教室清掃の徹底、校内の業者による清掃、空調のメンテナンスなどの設備環境や自習室など学習に使える環境も維持しています。授業時に使用するモニターも大型のものを追加購入し、提示資料が見やすい学習環境に改善しました。

#### (7)入学者の募集

評価項目	適切4・ほぼ適切3・やや不適切2・不適切1
学生募集活動は適正に行なわれているか	④・3・2・1
学生募集活動において、教育成果や学習指導状況が正確に伝えられているか	④・3・2・1
学納金は妥当なものとなっているか	④・3・2・1

これまで同様、当校の母国語のスタッフ・現地のスタッフ・紹介機関と連携して学生募集活動を行っております。入学者の選考にあたり必ず現地での面接(可能な限り保護者同伴)を行ない、学力、支弁能力、勉学意欲があるかの基準を設け、適切に行っています。学校案内・HP等を活用しながら現地説明会も実施し、教育成果、指導内容をわかりやすく紹介しています。また、必要に応じて入学希望者へのオンライン面接も複数回実施することで、募集時に当校のことをよく理解してもらえるよう努力しています。

昨今の物価上昇に伴い、人件費・光熱費・その他整備する物品すべてにかかる経費支出が増加となったため、検討の上、学納金を次年度(2025年度)4月より改定することとしました。今年度9月に校納金改定にともなう学則の変更を入管に届け出済みで、新年度の募集段階からその旨を理解してもらうべく通知を徹底しています。

#### (8)財務

評価項目	適切4・ほぼ適切3・やや不適切2・不適切1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4・③・2・1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④・3・2・1
財務について会計監査が適正に行なわれているか	④・3・2・1

引き続き税理事務所への委託で、適切な会計を行なっており、監査役が適切に監査しています。

コロナ禍によって極力無駄を省いた堅実な収支計画が今年度まで続いていましたが、新年度(2025年度)4月期時点での学生数が300人を超え、同年度内に定員400人をほぼ満たすと想定できる復調状況となるため、

財務基盤に問題はなく、今後は教職員人員の拡充、設備補修など余裕を持った業務と環境整備が計画・実施できるものと考えます。

(9) 法令遵守

評価項目	適切4・ほぼ適切3・やや不適切2・不適切1
出入国管理及び難民認定法令及び各種関連法令等の遵守と適切な運営を行なっているか	④・3・2・1
教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組を行なっているか	④・3・2・1
個人情報保護のための対策がとられているか	4・③・2・1

これまで同様、研修等を通じて法令遵守については全職員に徹底し、正しいコンプライアンス意識を持つように各種事例を職員間でできるだけ共有するように努めています。個人情報保護に関しては、教職員への指導・管理はじゅうぶんに行っておりますが、情報・データの完全なパスワード保護などは業務上の円滑利用の状況から今年度もシステム構築できておりませんので引き続きの検討課題であります。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切4・ほぼ適切3・やや不適切2・不適切1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4・③・2・1
学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	4・③・2・1
地域や関連行政との交流や情報交換を行なっているか	④・3・2・1

これまで同様、地域社会との交流やボランティア活動への参加は学校主体では行っていませんが、ベトナムの大学の通信課程日本校のテスト会場としての教室貸し出しは引き続きおこなっています。また中国人学習者に限ってですが、進学者向け塾の臨時教室としても貸し出しをおこなったり、学外組織との連携・協力は必要に応じて進めています。

地域の警察署(杉並区高井戸署・世田谷区成城署)と連携は継続しておこなっており、事件・事故の事例をもとにした学生対象の講習会を実施してもらっていると同時に、定期的な学校の状況報告と情報交換を続けています。

2025年4月30日